

## 対人不安とソーシャルサポートの関連性

### — サポート要求と満足度の観点から —

山本悦子・田頭穂積

不安は、行動や意識を抑制し、しばしば、身体的変調をもたらし、病気につながることもある。しかし、不安は、一種の警告信号の役割を果たしており、私たちが危険から守る働きをしている。また、一般に不安と呼ばれる情動も、引き起こされる事態や対象によってさまざまであり、不安の程度も個人によって異なる。しかし、対人不安の場合は、ある状況に共通した特徴があげられる。対人不安の定義は研究者により異なるが、Buss(1980)は、“他者からの詮索や注目、あるいは単なる他者からの存在によって引き起こされる動揺や混乱”または“人前に出た時に感じる不快感”と定義している。また、Schlenker & Leary (1982)は“現実の、あるいは想像上の対人場面において、他者からの評価に直面したり、もしくはそれを予測したりすることから生じる不安状態”と定義している。さらに、Trower (1986)は、対人不安の本質的特徴は“実際のあるいはイメージされた社会状況における、対人的行動についてのネガティブな評価への恐れ”であると指摘している。つまり、対人不安を引き起こす要因の一つは、他者からの注目や評価を感じたときに引き起こされる社会的な場面における公的自己意識の高揚である。しかし、公的自己意識の高揚が、直接対人不安を生起させるわけではないが、対人不安を生起させる要因がいくつか重なれば、普段はあまり対人不安を感じない人でも対人不安を感じるであろう。Buss(1980)は、そのような対人不安の原因として5つの要因をあげている。それは、集団の大きさ、注意量、人物の熟知度、公式性、評価の程度である。

このように、対人不安は、対人関係的な事象によって喚起される状態として定義されるが、この状態を経験する程度には個人差がある。このような、不安を経験する傾向の強さにみられる個人差は、気質もしくは特質としてとらえられ、対人不安傾向(dispositional social anxiety)や対人不安特性(trait social anxiety)または対人不安性(social anxiousness)と呼ばれている。

近年、ソーシャルサポートが注目されており、さまざまな研究が進められている。ソーシャルサポートとは、“家族や友人などある個人を取り巻くさまざまな人々から与えられる有形・無形の支援である(嶋, 1991)”が、ソーシャルサポートの分類は研究者によって異なる。浦(1992)はソーシャルサポートを大別して道具的サポートと情緒的サポートの2種類に分類している。道具的サポートとは、問題を解決するのに必要な資質を提供したり、その資質を手に入れることができるための情報を与えたりする働きかけである。情緒的サポートとは、相手の自尊心や情緒に働きかけてその傷を癒し、自らの力で問題解決できるようにする働きかけである。

ソーシャルサポートの効果には、主要効果と緩衝効果の2つのストレス緩和効果があるとされている。また、ソーシャルサポートが身体的・心理的健康状態に及ぼす影響などの研究も進められている。さらに、福岡(1997)は、友人関係におけるサポートの入手と提供を、認知レベル(入手可能性と提供可能性)と実行レベル(実際のサポートの入手量と提供量)の両面から捉え、入手-提供の対応性とそのズレが個人の感情状態に及ぼす影響を、男女差を絡めて検討している。しかし、ソーシャルサポートと対人不安に関する研究は見られない。上述したように、対人不安は、他者からの評価によって生ずると定義されているが、さらに、Leary(1986)は、他者に対して特定の印象を与えようとする自己呈示動機が対人不安を生じさせると述べている。つまり、対人不安は、その個人が他者に自分が望んだ通りの印象を与え、良い評価を得ようという目標を持ち、しかも、それに失敗するのではないかという恐れから生じるのである。このように、対人不安は、それを生起する認知的要因などによって高められる。したがって、対人不安の高い人は、対人場面において特に自己呈示動機が関与することから、そうでない人と比べて他者から受ける行為や要求の仕方に違いが見られるのではないかと考えられる。そのため、対人不安の低い人とは異なったソーシャルサポートの認知・受容をするであろうと考えられる。

そこで、本研究の目的は、対人不安とソーシャルサポートの関連について調べ、対人不安の高低によってどのようなサポートが受容されるのかを、サポート要求と満足度の観点から検討していく。

## 方 法

**対 象** 女子大生 143名。

**調査期間** 2000年10月下旬～11月。

**調査用紙の構成** 調査用紙は対人不安意識尺度とソーシャルサポート尺度から構成された。

対人不安尺度は、林・小川(1981)によって作成された対人不安意識尺度66項目12因子(対人関係で緊張する悩み、自分や他人が気になる悩み、集団に溶け込めない悩み、多勢の人に圧倒される悩み、自分に満足できない悩み、気分が動揺する悩み、くつろいで人とつき合えない悩み、ささいなことを気に病む悩み、生きている充実感がない悩み、気分のすぐれない悩み、目が気になる悩み、変な人に思われる悩み)と江島(1993)の対人不安意識尺度の調査結果から因子負荷量の高い43項目を使用した。回答に用いた尺度は「非常によくあてはまる」から「全くあてはまらない」の7件法であった。

ソーシャルサポート尺度は、久田・千田・箕口(1989)の大学生用ソーシャルサポート尺度(SESS)と前川(1998)を参考にし、20項目から構成された。サポート源を、家族と友人の2種類に限定し、12ヶ月以内に家族・友人にどのくらいサポートを求めたか、また併行してその満足度を評定させた。サポートをどのくらい求めたかについては、「全く求めなかった」から「かなり求めた」の5件法で、そのサポートに対する満足度については「全然満足していない」から「大変満足している」の4件法で評定するようになっていた。

手続き 調査は，“大学生の意識調査”という名称にし，授業時間中と授業時間外に行った。調査用紙を集団場で配布した後，回答の仕方を説明し，各質問項目について評定させた。

結果の処理 対人不安尺度の得点は，「全くあてはまらない」に1点，「非常によくあてはまる」に7点を与えたので，得点が高いほど対人不安が高いことを示す。

ソーシャルサポート尺度の得点は，家族と友人に各サポートをどれくらい求めたかについて，「全く求めなかった」に1点，「かなり求めた」に5点を与えたので，高得点であるほど各サポートを多く求めていることを示す。これをサポート要求得点とした。各サポートに対する満足度については，「全然満足していない」に1点，「大変満足している」に4点を与えたので，高得点であるほど各サポートに対して満足していることを示す。これをサポート満足度得点とした。また，サポート要求と満足度の評定尺度が異なっていたため，サポート要求と満足度を比較するために，各評定尺度の得点を正規化して分析を行った。

## 結果および考察

### 1. 家族と友人のサポート要求と満足度について

対人不安とソーシャルサポートの関係を検討するために，まず対人不安得点から，対人不安高群(H) (平均 $M+0.5SD$ 以上)と低群(L) (平均 $M-0.5SD$ 以下)に分けた。そして，家族・友人のサポート要求と満足度を比較するために，評定尺度の得点を正規化して結果の処理を行った。Fig.1は家族へのサポート要求と満足度の平均を示したものである。Fig.2は，同様に友人へのサポート要求と満足度について示したものである。家族と友人のサポート要求・満足度と対人不安の関係を検討するために，2 (対人不安：H・L) × 2 (サポート対象：家族・友人) × 2 (サポート要求・満足度)の三要因分散分析を行ったところ，対人不安 ( $F=6.38, df=1/89, p<.01$ )に主効果がみられた。また，対人不安 × サポート要求・満足度の交互作用 ( $F=15.62, df=1/89, p<.001$ )が有意であった。そこで，対人不安高低別に家族のサポート要求と満足度の比較を行うために $t$ 検定を行ったところ，対人不安H群のサポート要求と満足度間 ( $t=2.84, df=45, p<.01$ )，対人不安L群のサポート要求と満足度間 ( $t=2.12, df=44, p<.05$ )に有意差が見られた。また，サポート満足度における対人不安HL間に

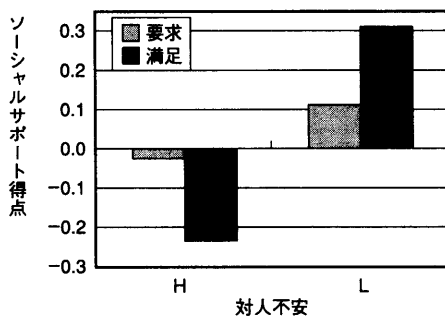


Fig.1 家族サポート要求と満足度の平均得点

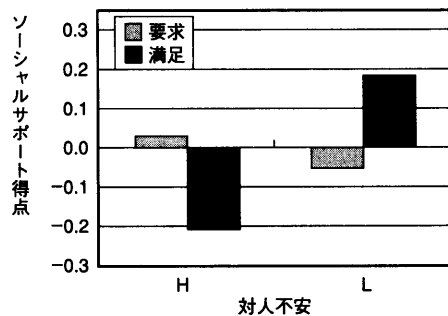


Fig.2 友人サポート要求と満足度の平均得点

有意差 ( $t=4.12, df=85, p<0.01$ ) が認められ、サポート要求における対人不安HL間に片側で傾向 ( $t=1.14, df=89, p<.05$ ) が見られた。同様に、対人不安の高低別に友人のサポート要求と満足度の比較を行うために  $t$  検定を行ったところ、家族とほぼ同様の結果になったが、サポート要求における対人不安のHL間において有意差が見られなかった。以上のことから、家族サポートについては、対人不安の高い人は低い人に比べて家族にサポートを求めず、求めたサポートに対して不満足に感じている。対人不安の低い人は、家族に対してサポートを要求し、求めたサポートに対して満足しているといえる。友人サポートについては、対人不安の高い人は、求めるサポートに比べて満足度が低い結果となっているので、求めたサポートに対して不満足に感じている。対人不安の低い人は、求めるサポート要求に比べて満足度が高い結果となっているので求めたサポートに対して、満足しているといえる。

上述したように、対人不安の高低によってサポート要求と満足度に違いが見られたことから、さらに因子別の検討を行った。

## 2. 対人不安と家族および友人のサポート要求因子と満足度因子の比較について

ソーシャルサポートの因子構造を明らかにするために、家族および友人のサポート要求と満足度について因子分析(主因子法・バリマックス回転)を行った。その結果、4因子が抽出され、因子負荷量が0.40以上を示す項目を選定し分析を行った(Table 1, 2, 3, 4)。因子の命名については、和田(1992)のサポート内容を参考に命名した。家族サポート要求について、第1因子は「尊重・受容的サポート」、第2因子は「情緒的サポート」、第3因子は「道具的サポート」、第4因子は「共感的サポート」と命名した。家族サポート満足度について、第1因子は「道具的サポート」、第2因子は「共感的サポート」、第3因子は「情緒的サポート」、第4因子は「尊重・受容的サポート」と命名した。友人サポート要求について、第1因子は「情緒的サポート」、第2因子は「尊重・受容的サポート」、第3因子は「道具的サポート」、第4因子は「情動的サポート」と命名した。友人サポート満足度について、第1因子は「道具的サポート」、第2因子は「情緒的サポート」、第3因子は「尊重・受容的サポート」、第4因子は「情動的サポート」と命名した。家族および友人のサポート要求・満足度の因子別平均得点を示したものがFig. 3, 4, 5, 6である。

対人不安の高低と家族のサポート要求及びサポート満足度の因子を比較するために、2(対人不安HL)×4(サポート因子)の二要因分散分析を行ったところ、家族サポート要求では、主効果および交互作用は見られなかった。しかし、家族サポート満足度では対人不安に主効果 ( $F=14.12, df=1/89, p<.001$ ) が見られた。そこで、家族サポート満足度因子を対人不安の高低間で比較するために  $t$  検定を行ったところ、道具的サポート間 ( $t=3.78, df=88, p<.001$ )、共感的サポート間 ( $t=2.01, df=79, p<.05$ )、情緒的サポート間 ( $t=2.52, df=87, p<.001$ )、尊重・受容的サポート間 ( $t=3.38, df=77, p<.001$ ) で有意差が見られた。

以上のことから、家族サポート要求では、対人不安の高低によってサポート因子に差が見られず、サポート因子間においても差が見られない結果となった。つまり、対人不安の高低によって、家族

Table 1 家族サポート要求の因子分析結果

項 目	因 子				共通性
	F1	F2	F3	F4	
<b>第1因子「尊重・受容的サポート」</b>					
20. あなたのことをとても大切にしてくれる。	0.85	0.13	0.05	0.15	0.76
18. 良いことも悪いこともすべて含めて、あなたの存在を認めてくれる。	0.75	0.25	0.14	0.16	0.67
16. 普段からあなたの気持ちを理解してくれる。	0.51	0.31	0.18	0.41	0.56
15. 日頃からあなたの実力を評価し、認めてくれる。	0.46	0.11	0.23	0.19	0.32
<b>第2因子「情緒的サポート」</b>					
1. あなたが落ち込んでいると元気づけてくれる。	0.19	0.75	0.06	0.26	0.66
3. あなたが誰かに嫌なことを言われた時になくさめてくれる。	0.05	0.65	0.10	0.20	0.47
17. あなたが学校での人間関係で悩んでいると知ったら、いろいろとアドバイスしてくれる。	0.19	0.57	0.30	-0.01	0.45
8. あなたが何かで失敗したと知ったら、一生懸命なくさめてくれる。	0.40	0.50	0.20	0.28	0.53
9. 自分の言動について、単に良いとか悪いとか言うのではなく、客観的な見方で意見を言ってくれる。	0.34	0.48	0.25	0.21	0.45
<b>第3因子「道具的サポート」</b>					
14. 一人で処理できない仕事があった時、快く手伝ってくれる。	0.09	0.02	0.65	0.20	0.47
19. 何か処理しなければならない問題を抱えている時などに、援助を申し出てくれる。	0.35	0.23	0.64	-0.13	0.60
7. 他の人の行動、態度、趣味、好みなどの情報を提供してくれる。	-0.04	0.14	0.50	0.16	0.30
12. あなたがミスしても、そっとカバーしてくれる。	0.30	0.23	0.49	0.07	0.39
<b>第4因子「共感的サポート」</b>					
2. あなたが話す話を、いつもよく聞いてくれる。	0.18	0.29	0.13	0.66	0.58
5. あなたに何か嬉しいことがあった時、それを自分のしたことのように喜んでくれる。	0.25	0.15	0.13	0.56	0.41
寄与	15.13	14.33	10.73	8.28	
累積寄与率	15.13	29.48	40.20	48.47	

Table 2 家族サポート満足度の因子分析結果

項 目	因 子				共通性
	F1	F2	F3	F4	
<b>第1因子「道具的サポート」</b>					
19. 何か処理しなければならない問題を抱えている時などに、援助を申し出てくれる。	0.76	-0.04	0.24	0.22	0.69
11. あなたが不満をぶちまけたい時にははげ口になってくれる。	0.68	0.30	0.27	0.15	0.64
12. あなたがミスしても、そっとカバーしてくれる。	0.64	0.17	0.14	0.29	0.54
17. あなたが学校での人間関係で悩んでいると知ったら、いろいろとアドバイスしてくれる。	0.64	0.11	0.34	0.19	0.57
14. 一人で処理できない仕事があった時、快く手伝ってくれる。	0.51	0.09	0.35	0.05	0.39
10. あなたが元気がないと、すぐに気づいて励ましてくれる。	0.48	0.37	0.28	0.18	0.47
15. 日頃からあなたの実力を評価し、認めてくれる。	0.46	0.35	0.16	0.26	0.42
7. 他の人の行動、態度、趣味、好みなどの情報を提供してくれる。	0.43	0.30	0.10	-0.09	0.46
9. 自分の言動について、単に良いとか悪いとか言うのではなく、客観的な見方で意見を言ってくれる。	0.42	0.39	0.13	0.34	
<b>第2因子「共感的サポート」</b>					
5. あなたに何か嬉しいことがあった時、それを自分のしたことのように喜んでくれる。	0.15	0.75	0.23	0.03	0.64
13. あなたが何かを成し遂げたとき、心からおめでとうと言ってくれる。	0.12	0.63	0.14	0.27	0.50
<b>第3因子「情緒的サポート」</b>					
3. あなたが誰かに嫌なことを言われた時になくさめてくれる。	0.32	0.07	0.72	0.04	0.62
1. あなたが落ち込んでいると元気づけてくれる。	0.21	0.24	0.55	0.25	0.47
6. あなたがどうしてよいか分からなくなった時、助けてくれる。	0.28	0.36	0.53	0.25	0.56
2. あなたが話す話を、いつもよく聞いてくれる。	0.20	0.30	0.44	0.16	0.35
<b>第4因子「尊重・受容的サポート」</b>					
20. あなたのことをとても大切にしてくれる。	0.12	0.08	0.24	0.88	0.86
18. 良いことも悪いこともすべて含めて、あなたの存在を認めてくれる。	0.24	0.19	0.08	0.61	0.48
寄与	19.84	11.15	10.71	10.17	
累積寄与率	19.84	31.00	41.71	51.88	

Table 3 友人サポート要求の因子分析結果

項目	因子				共通性
	F1	F2	F3	F4	
<b>第1因子「情緒的サポート」</b>					
1. あなたが落ち込んでいると元気づけてくれる。	0.63	0.21	0.11	0.29	0.54
8. あなたが何かで失敗したと知ったら、一生懸命なぐさめてくれる。	0.62	0.27	0.14	0.28	0.55
5. あなたに何か嬉しいことがあった時、それを自分のしたことのように喜んでくれる。	0.61	0.18	0.19	0.02	0.45
9. 自分の言動について、単に良いとか悪いとか言うのではなく、客観的な見方で意見を言ってくれる。	0.50	0.31	0.12	0.20	0.40
2. あなたがする話しを、いつもよく聞いてくれる。	0.49	0.26	0.18	0.20	0.38
6. あなたがどうしてよいか分からなくなった時、助けてくれる。	0.48	0.28	0.36	0.12	0.45
10. あなたが元気がないと、すぐに気づいて励ましてくれる。	0.44	0.31	0.32	0.28	0.47
<b>第2因子「尊重・受容的サポート」</b>					
18. 良いことも悪いこともすべて含めて、あなたの存在を認めてくれる。	0.26	0.79	0.07	0.14	0.72
20. あなたのことをとても大切にしてくれる。	0.19	0.72	0.17	0.20	0.62
16. 普段からあなたの気持ちを理解してくれる。	0.40	0.70	0.14	0.16	0.72
<b>第3因子「道具的サポート」</b>					
19. 何か処理しなければならない問題を抱えている時などに、援助を申し出してくれる。	0.01	0.19	0.65	0.38	0.61
14. 一人で処理できない仕事があった時、快く手伝ってくれる。	0.33	0.01	0.64	0.13	0.54
12. あなたがミスしても、そっとカバーしてくれる。	0.30	0.18	0.51	0.33	0.49
7. 他の人の行動、態度、趣味、好みなどの情報を提供してくれる。	0.12	0.08	0.50	0.03	0.27
<b>第4因子「情報のサポート」</b>					
17. あなたが学校での人間関係で悩んでいると知ったら、いろいろとアドバイスしてくれる。	0.15	0.37	0.15	0.66	0.61
11. あなたが不満をぶちまけたい時にははけ口になってくれる。	0.21	0.19	0.15	0.59	0.45
3. あなたが誰かに嫌なことを言われた時になぐさめてくれる。	0.36	0.02	0.25	0.52	0.47
寄与	16.07	13.23	10.63	10.22	
累積寄与率	16.07	29.30	39.93	50.15	

Table 4 友人サポート満足度の因子分析結果

項目	因子				共通性
	F1	F2	F3	F4	
<b>第1因子「道具的サポート」</b>					
12. あなたがミスしても、そっとカバーしてくれる。	0.73	0.11	0.29	0.15	0.66
14. 一人で処理できない仕事があった時、快く手伝ってくれる。	0.60	0.22	0.18	0.15	0.47
9. 自分の言動について、単に良いとか悪いとか言うのではなく、客観的な見方で意見を言ってくれる。	0.56	0.22	0.12	0.24	0.44
4. 援助が必要なとき、誰(どこ)に相談したらいいかを教えてくれる。	0.52	0.36	0.18	0.22	0.48
7. 他の人の行動、態度、趣味、好みなどの情報を提供してくれる。	0.44	0.18	0.17	0.16	0.28
10. あなたが元気がないと、すぐに気づいて励ましてくれる。	0.42	0.27	0.26	0.31	0.41
<b>第2因子「情緒的サポート」</b>					
2. あなたがする話しを、いつもよく聞いてくれる。	0.07	0.67	0.23	0.36	0.64
5. あなたに何か嬉しいことがあった時、それを自分のしたことのように喜んでくれる。	0.35	0.66	0.13	0.04	0.58
1. あなたが落ち込んでいると元気づけてくれる。	0.34	0.53	0.19	0.33	0.54
6. あなたがどうしてよいか分からなくなった時、助けてくれる。	0.38	0.49	0.36	0.11	0.53
<b>第3因子「尊重・受容的サポート」</b>					
20. あなたのことをとても大切にしてくれる。	0.24	0.24	0.87	0.13	0.89
18. 良いことも悪いこともすべて含めて、あなたの存在を認めてくれる。	0.23	0.18	0.56	0.26	0.46
11. あなたが不満をぶちまけたい時にははけ口になってくれる。	0.39	0.14	0.43	0.22	0.40
<b>第4因子「情報のサポート」</b>					
17. あなたが学校での人間関係で悩んでいると知ったら、いろいろとアドバイスしてくれる。	0.29	0.21	0.20	0.78	0.77
16. 普段からあなたの気持ちを理解してくれる。	0.33	0.24	0.30	0.51	0.51
寄与	17.97	13.11	12.53	10.06	
累積寄与率	17.97	31.08	43.61	53.67	

に求めるサポート内容には違いが見られないことが分かった。一方、家族サポート満足度では、因子間では差が見られなかったが、対人不安の高低によって違いが見られた。したがって、対人不安の高低によって、求めるサポート内容に違いは見られないが、サポート内容に対する満足度は、どの因子でも、対人不安の高い人は求めたサポートに対して不満足に感じており、対人不安の低い人は、求めたサポートに対して満足に感じているといえる。

次に、対人不安の高低と友人のサポート要求及びサポート満足度の因子を比較するために、2 (対人不安HL) × 4 (サポート因子) の二要因分散分析を行ったところ、友人サポート要求では、主効果および交互作用は見られなかった。しかし、友人サポート要求因子別に *t* 検定を行ったところ、対人不安のL群の情緒的サポートと尊重・受容的サポート間に片側検定で傾向 ( $t=1.64, df=44, p<.05$ ) が見られた。次に、友人サポート満足度における二要因分散分析を行ったところ、対人不安 ( $F=6.58, df=1/89, p<.01$ ) とサポート因子に主効果 ( $F=14.63, df=3/267, p<.001$ ) が認められ、対人不安 × サポート因子の交互作用 ( $F=3.89, df=3/267, p<.01$ ) が有意であった。そこで、友人サポート満足度因子を対人不安の高低で比較するために *t* 検定を行ったところ、道具的サポート間 ( $t=2.12, df=88, p<.05$ )、情緒的サポート間 ( $t=1.81, df=89, p<.05$ )、情動的サポート間 ( $t=3.01, df=88, p<.001$ ) に有意差が見られた。また、対人不安の高低別に因子間の比較をするために *t* 検定を行ったところ、対人不安H群において、道具的サポートと尊重・受容的サポート間 ( $t=5.39, df=45, p<.001$ )、情緒的サポートと尊重・受容的サポート間 ( $t=5.93, df=45, p<.001$ )、尊重・受容的サポートと情動的サポートと

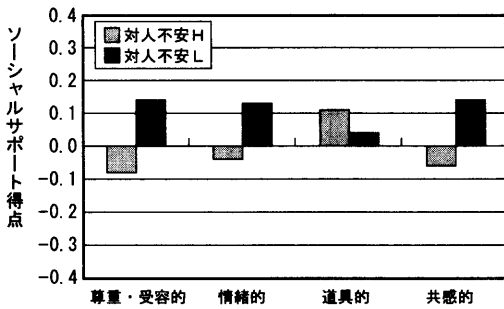


Fig. 3 家族サポート要求の因子別平均得点

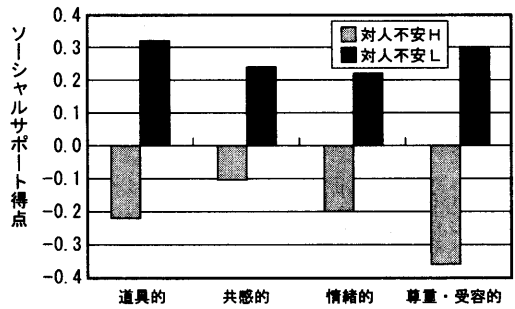


Fig. 4 家族サポート満足度の因子別平均得点

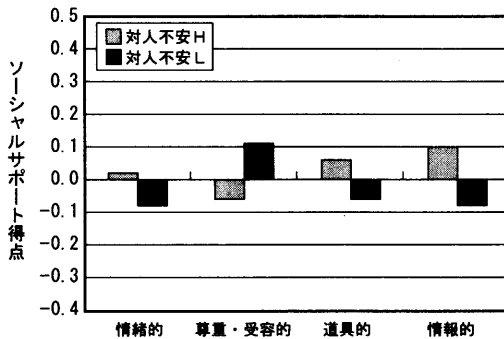


Fig. 5 友人サポート要求の因子別平均得点

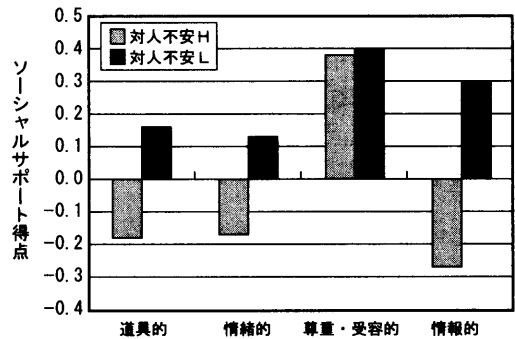


Fig. 6 友人サポート満足度の因子別得点

サポート間 ( $t=4.73, df=45, p<.001$ )において有意差が認められた。そして、対人不安L群において、道具的サポートと尊重・受容的サポート間 ( $t=2.37, df=44, p<.01$ ), 情緒的サポートと尊重・受容的サポート間 ( $t=2.74, df=44, p<.01$ )に有意差が認められた。

以上のことから、友人サポート要求では対人不安の低い人は友人に対して情緒的サポートはそれほど要求しないが、尊重・受容的サポートは比較的求めていると言える。一方、友人サポート満足度においては、対人不安の高低やサポート因子間に有意差が見られた。対人不安の高低で差が見られたのは道具的サポート、情緒的サポート、情動的サポートである。したがって、対人不安の高い人は、友人に求めたこれらのサポートに対して不満足に感じている。他方、対人不安の低い人は、友人に求めたこれらのサポートに対して、満足に感じていると言える。次に因子別にみると、対人不安の高い人は、尊重・受容的サポートを求めた場合の満足度はやや高いが、他の道具的、情緒的、情動的サポートを求めた場合の満足度は低いことが分かった。対人不安の低い人は、求めたすべてのサポート内容に対して満足に感じているが、特に、尊重・受容的サポートを求めた場合の満足度は他のサポートに比べて高いことが分かった。

これまでの結果を踏まえて全体的な考察をすると、家族サポート要求では、全体的には対人不安の高低で差が見られたが(Fig. 1), サポート要求因子を比較すると差がみられない。したがって、対人不安の高低によってサポートの要求の内容は変わらないと言える。しかし、Fig. 3を見ると、道具的サポートにおいては、対人不安の高い人の得点が正の方向にあり、道具的サポートを要求する傾向があるように見える。対人不安の高い人も家族に対しては、道具的サポートを要求する量が増えるように見えるが、統計的に明白な結果が出ていない。これについては、サンプル数を増やすなど、今後さらに検討する必要がある。

家族サポート満足度では、対人不安の高い人は求めたサポートに対して不満足に感じており、対人不安の低い人は求めたサポートに対して満足に感じているという結果になった。しかも、それぞれのサポート内容による変化はないことが分かった。藤原・狩野(1993)はサポート効果を性格別に検討している。彼らの研究によると、与えられるサポートの効果には性格による差は特に認められなかったが、サポートを与えられた時に感じる“嬉しい”というポジティブ感情の量に性格による差が認められたとしている。したがって、対人不安の低い人より高い人がサポートに対して不満足に感じているのは、サポートを与えられた時に感じるポジティブ感情が低いため、このような結果になったということも推測される。この点については、より詳細に検討されなければならない。

友人サポート満足度では、尊重・受容的サポートが対人不安の高低に関わりなく求めたサポートに対して満足している。尊重・受容的サポートの因子項目を見ると、“あなたのことをとても大切にしてくれる”, “あなたの存在を認めてくれる”といった項目内容である。これは、対人不安の高低に関わらず、周りの人から自分の存在を認めてもらうことはポジティブ感情を高める要因となるためではないかと考えられる。

本研究は、対人不安とソーシャルサポートの関係を検討していくことであった。中でも、対人不安の高低によってサポート要求量やサポート要求内容に違いが見られるのか、またその満足度はど



のようであるか検討した。本研究において、要求と満足度の直接的な比較はできなかった。それは、サポート要求と満足度の因子名は同じでも因子内の項目内容が完全に一致していなかったからである。また、サポート要求と満足度の全体の比較では、対人不安の高低で差が見られたため、因子間で違いが見られるのではないかと考えて検討した。なぜ、対人不安の高い人はサポートに対して満足しないのかということについて、その要因をサポートの種類別に、詳細に分析しようと試みたが、明らかな差は得られなかった。福岡(1997)は、大学生の男女における友人関係におけるサポートの入手と提供について、認知レベル(入手可能性と提供可能性)と実行レベル(実際のサポートの入手量と提供量)の両面から、入手—提供の対応性とそのズレが個人差の感情状態に及ぼす影響を検討した。その中で、サポートと感情状態との相関を調べたところ、関係満足度はサポートの交換と強く結びついており、入手可能性が高いほど満足度が高まるという関係を見出した。したがって、対人不安の高い人と低い人でサポート満足度に違いが見られたのは、サポートの入手可能性の高さも関与していると考えられる。つまり、対人不安の低い人は、サポートの入手可能性が高いためサポート量も多く、期待していたサポートが受けられ満足度が高まる。他方、対人不安の高い人は、サポート入手可能性が低いため満足なサポートを得られていないと認知しているのではないかと推測される。しかし、これらは明白ではないので、今後の課題として、サポートの質的分析やサポートネットワーク、サポート経験量などの視点からも検討されなければならない。また、対人不安の認知的要因とも絡めて詳細に検討される必要があるだろう。

## 引用文献

- Buss, A.H. 1980 *Self-consciousness and social anxiety*. San Francisco : Freeman.
- 江島由紀枝 1993 対人不安に及ぼす自尊感情と向性の関係 広島文教女子大学卒業論文(未公開)
- 藤原珠江・狩野素朗 1993 ソーシャル・サポートの効果に関わる性格要因の検討 九州大学教育学部紀要教育学部門, 38, 51-59.
- 福岡欣治 1997 友人関係におけるソーシャル・サポートの入手と提供 — 認知レベルと実行レベルの両面からみた互惠性とその男女差について — 対人行動学研究, 15, 37-43.
- 林 洋一・小川捷之 1981 対人不安意識尺度構成の試み 横浜国立大学保健管理センター年報, 1, 29-46.
- ヘネンホフナー,G.・ハイル,K.D. 生和秀敏・生和禎子(訳) 1993 不安の克服 — 不安の行動論と自己訓練法 — 北大路書房 (Hennenhofer, G. & Heil, D. 1973 *Angst Überwinden — Selbstbefreiung durch Verhaltenstraining —* Stuttgart : Deutsche Verlags-Anstalt GmbH.)
- 久田 満・千田茂博・箕口雅博 1989 学生用ソーシャルサポート尺度作成の試み(1) 日本社会心理学会第30回大会発表論文集, 143-144.
- 今城周造 1993 社会心理学 — 日常生活の疑問から学ぶ — 北大路書房
- 前川和美 1998 大学生におけるソーシャル・サポートとパーソナリティの関係について 広島文

教女子大学卒業論文(未公刊)

- Leary, M.R. 1986 Anxiety and inhibition in interpersonal relations. In M.R. Leary & Miller, R.S. (Eds.) *Social psychology and dysfunctional behavior : Origins, diagnosis, and treatment*. New York : Springer.
- リアリィ, M.R 生和秀敏 (監訳) 1990 対人不安 北大路書房 (Leary, R. 1983 *Social anxiety — Social, personality, and clinical perspectives —* SAGE publication.)
- Schlenker, B.R. & Leary, M.R. 1982 Social anxiety self-presentation : A conceptualization and model. *Psychological Bulletin*, 92, 641-669.
- 嶋 信宏 1991 大学生のソーシャルサポートネットワークの測定に関する一研究 教育心理学研究, 39, 440-447.
- Trower, P. 1986 Social skill training and social anxiety. In C.R.Hollin & P.Trower (Eds.) *Handbook of social skill training : Clinical application and new directions*. Vol.2. Pergamon Press. 39-66.
- 辻平治郎 1993 自己意識と他者意識 北大路書房
- 浦 光博 1992 支えあう人と人 — ソーシャル・サポートの社会心理学 — サイエンス社
- 和田 実 1992 大学新生生の心理的要因に及ぼすソーシャルサポートの影響 教育心理学研究, 40, 386-393.